



# 武 一 中

令和 8 年 5 月 14 日  
武蔵野市立第一中学校  
学校だより R8-5 号

URL:<https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/>

## 「鶏口牛後」の感想

校長 中嶋 建一郎

5/11 朝礼の話の感想を 30 人が書いてくれました。ありがとうございました。「鶏口牛後」という言葉が難しかったですね。私がこの言葉を知ったのは高校の国語の授業でした。でもこんな機会に覚えるのも良いでしょう。1 年生の感想も増えてきました。考えを共有しましょう。

○私も校長先生と同じで「朱に交われば赤くなる」つまり、学力の高い学校に行けば周り  
と切磋琢磨して頑張れて、成績が上がるのではないかと考えていたので、「鶏口となる  
も牛後となるなかれ」つまり、学力のまあまあな学校のトップになったほうが成績が上  
がると知ってびっくりしました。学力の高い学校に入ることは、みんな懂れていること  
なのではないかと思います。ですが、あまり頑張りすぎても後々成績に伸び悩むことにな  
るのかもしれないなと思いました。

●中学受験をしようと思っていたとき、お父さんに、高い学校に行くなら、そこより低い  
学校で、上位にいたほうがいいよと言われたことがあったので、B かなとすぐ思いまし  
た。高校受験の時の学校選びの参考にもしたいです。 (※B はスライドにあったものです)

○今日は、鶏口牛後 (けいこうぎゅうご) ということわざを知ることができました。そし  
て、経済学の研究をしている人のお話を実際に聞いて、その人の本を読んで、皆さんは  
どう思いますか?というところがすごい心に残りました。大きなところで自分のレベル  
を高くしようとするよりも、小さなところだからこそ、自分の不得意や得意なところを  
もっと探してうまくなりたいです。

●平均 90 点の学校で下の方にいるよりも 60 点の学校で上位にいる方が成績が伸びるとい  
う話が印象に残りました。しかしだからといって「偏差値の低い学校でもいいや」と思  
わないようにしていきたいです。受験で失敗した時はこの話を思い出したいです。

○私は、特に「学力の高い学校にぎりぎり入った人と、学力がそこまで高くない学校に余  
裕で入った人の、その後の学力の変化」という具体例が印象に残りました。私は、校長  
先生と同じく、前者のほうが上を目指して頑張り、成績が伸びると思っていました。で  
すが、後者のほうが成績が伸びるときいて、驚きました。

●進学先を決めていくときに、この話を参考にしたいと思いました。「学力の経済学」を  
一度読んでみたいです！

○自分もその本を読んでみたいと思った。

○いつも上に行くことばかり考えていましたが、自分の丈と合う場所を選んでみるのも、時には大切だと気づけました。これからは、私が「頑張りたい」と思える環境を見つけていきたいと思います！

●今回の話は、とても身近で将来にもつながるので集中して聞けました。レベルが高くても、低くても、いかに自分が努力できるのかが大事だと思います。そのために自分にあった環境を見つめ直すべきだと感じました。

○学力の高い学校にギリギリ入ったのと学力がそこまで高くない学校に余裕で入ったのとどちらがこのあと学力が高くなったと思いますか、と聞かれたとき私は、学力が高い方だと思っていました。なので、学力がそこまで高くない学校に入っている人のほうが、学力が伸びると聞いて驚きました。その後説明してくれた、「鶏口牛後」この言葉を意味と一緒に覚えていきたいです。

●教育を受けている身として、「教育」という名の答えのない問いに対して改めて考えてみたいと思いました。朝礼のためにこれだけの密度を濃くしたスピーチができるのは先生ならではなのかなと思いました。

○自分が伸びる環境が成績アップにつながるんだと思いました。最初に鶏口牛後という言葉がスライドの画面にでてきたときは意味がわかりませんでした。でも意味がわかるとよく理解できました。中嶋校長先生の学校の平均点の例えがわかりやすかったです。  
(しかもスライド)

●鶏口牛後という四字熟語とその意味を初めて知りました。私も広く、少しレベルの高い中で下の方の成績を取るよりも、小さな組織の中でも「一番になる」ことのほうが難しいと思いました。私も牛後ではなく、鶏口になりたいと思いました。

○優秀な集団で真ん中の位置にいることと普通の集団でトップにいることのどちらがいいのか考えさせられました。

●鶏口牛後についてすごく納得できる話でした!!こんな考え方があったんだと感じられました。

○鶏口牛後という言葉は初めて聞いたけど、鶏口になれるように頑張りたいです。

●上位の学校に通って下位層になるより、中くらいの学校に通って上位層になる方が成績・意欲が上がるということが意外だった。生きている中でどちらかを選択するのに迷うときもある。物事にはプラス面があればマイナス面もある。一方の視点だけで捉えず、反対の視点で捉え、最終的に自分の結論(=選択)を出すことも大事だと思った。

~~~~~

・「その本を読みたい」という感想もありました。中室牧子さんの本は学校の図書館にはありませんが、調べてみたら武蔵野市の図書館にあります。「学力の経済学」は3冊、「科学的根拠で子育て」は7冊所蔵されています。経済学に関係する本なので、将来「お金を稼げる」ようになるには、どんなことをすると良いかなどが書かれています。興味をもった人は読んでみてください。

